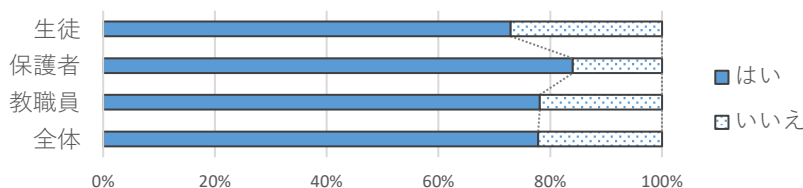


令和4年度学校評価アンケート分析結果 III：進路希望の実現

1 (1) 卒業後の進路は具体的に決まっていますか。

・保護者の約8割、生徒の約7割が「はい」と回答しています。

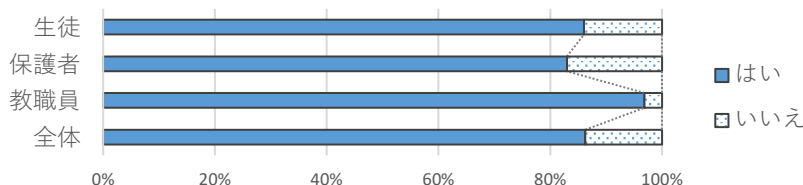
『具体的な進路については迷っている生徒が多い現状ですが、生徒の回答は昨年より1割増加しており、進路行事などを通して考える機会はおおむね確保できていると考えられます。一方で、自己分析や自己理解が進まず、将来に不安を抱いている生徒も一定数いる現状です。』



1 (2) 進路行事（進路の日・先輩に話を聞く会・講話等）は、参考になりますか。

・生徒の約9割、ほぼ全ての教職員が「はい」と回答しています。

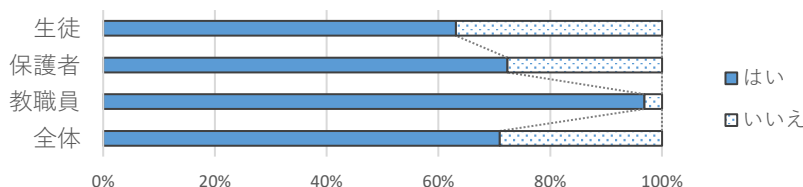
『生徒の実態に応じて、学年や時期に応じた進路行事の内容等を精査し、進路意識を高揚させる取り組みがなされていると考えられます。』



1 (3) 進路だよりを読みましたか。

・保護者の約3割、生徒の約4割が『いいえ』と回答しています。

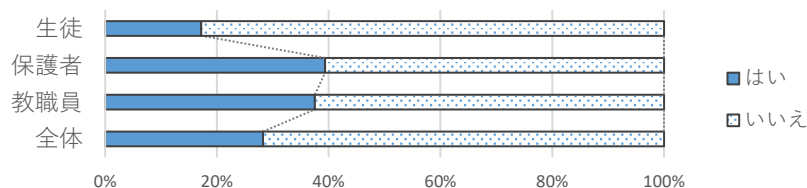
『進路だよりは、学期ごとに発行し、ホームルームにおいてポイントを確認しながら配付するなどしています。昨年に比べ改善傾向はありますが、年に3回の発行であるため、進路だよりに対する認識が無い生徒が一定数いると考えられます。特に、配付時に欠席している生徒については、読む機会が無くなってしまっていると考えられます。』



2 (1) 先輩方が就職している会社を3社以上知っていますか。

・生徒の約8割、保護者の約6割が「いいえ」と回答しています。

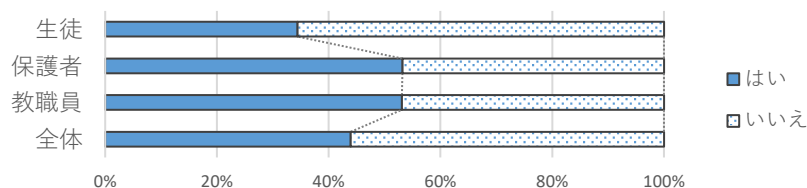
『一部生徒は部活動などに積極的に取り組み、先輩などから進路に関する情報を得る事ができています。しかしながら、多くの生徒にとっては部活動等による生徒同士の学年を超えた縦の繋がりが希薄であることや、進学希望の生徒にとっては興味・関心が低いことなどが影響していると考えられます。具体的に就職した卒業生の様子は、進路室前などに掲示されており、面談等で来校した際に、生徒と保護者で情報共有しているご家庭もある一方、学校に足を運ぶ機会の少ない保護者の方々へは情報が伝わりにくいと考えられます。』



2 (2) 先輩方が進学している大学・短大・専門学校を知っていますか。

・生徒の約7割、保護者の約5割が「いいえ」と回答しています。

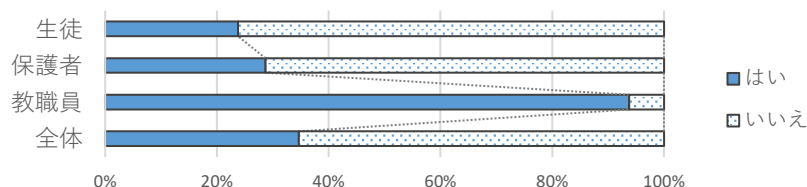
『一部生徒は部活動などに積極的に取り組み、先輩などから進路に関する情報を得る事ができています。しかしながら、多くの生徒にとっては部活動等による生徒同士の学年を超えた縦の繋がりが希薄であることや、就職希望の生徒にとっては興味・関心が低いことなどが影響していると考えられます。また、面談等で来校した際に、生徒と保護者で情報共有しているご家庭もある一方、学校に足を運ぶ機会の少ない保護者の方々へは情報が伝わりにくいと考えられます。』



3 (1) 検定や資格を何か取りましたか。

・生徒の約8割、保護者の約7割が「いいえ」と回答しています。

『基礎学力の定着を目標とする生徒が多いため、資格・検定の勉強まで手が回らない生徒が多いと考えられます。検定や資格を取得させることで、進路活動に生かし、勉強に対する向上心を育むことができるため、様々な検定や資格の周知や受験の呼びかけを行っています。その結果、一部生徒は積極的に資格取得に取り組む姿が見受けられました。』



総合所見

進路を考えているという回答が多く、卒業生講話や進路ガイダンス等の進路行事の充実や進路に関する情報発信が結果につながったと考えられます。一方で、進路を考えている割合と比べ、進路だよりも目を通す割合や、卒業生の就職先や進学先の情報を把握している割合が少なくなることを考えると、実際は進路についてどの程度「具体的」に考えているのかという点で、教職員が考える「具体的」との間に差異が生じている可能性があります。さらに、卒業生の就職先、進学先についての情報を生徒のみならず保護者もあまり把握していないことを考えると、学校からの情報発信だけで進路意識が高まるのかという点で疑問が生じます。進路について、何をどのように考え、どこから情報が得られ、どう取捨選択していくかということについても考えることが「具体的な進路」であるということを、進路だよりや面談等を通して伝える必要性が考えられます。多くの生徒において、高校入学以前の課題が大きいことから、まずは毎日登校し、健全に過ごすという学校生活が日常化した上で、進路を考える余地を生むためにも、本校の教育課程全体で進路を見据えた日常の生徒指導は必要不可欠であると考えます。